

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472800750
法人名	有限会社 くろべ
事業所名	グループホーム みそのむら
所在地 (電話番号)	伊勢市御園町高向481 (電話) 0596-29-2827
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年11月 7日(水)

## 【情報提供票より】 (H19年10月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人, 非常勤3人, 常勤換算13.8人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	0~7,700 円
敷 金	(有) (96,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,300 円		

## (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.4 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸クリニック、山田赤十字病院、きたむら歯科クリニック
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者個人の尊重と地域との関係を重視した「暖かい心で相手の立場になって考える。共に考え、共に生き、共に幸福に、そして地域への貢献を目指す」ことを合言葉に、職員全員で利用者の介護、支援に向けて熱心に取り組んでいる。職員と利用者及び家族との関係を大事に考え、職員が仕事と家庭を両立できるための働きやすい勤務形態となるよう配慮し、離職を最小限にとどめる工夫をしている。職員を育てる取り組みとして、職員が各種資格取得のための勧奨や執務優良者に対する報奨制度を設けている。なお、仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組む企業として、第6回「男女がいきいき働いている企業」知事表彰選考委員会奨励賞を受賞した。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題「洗剤の保管場所及び夜間における刃物類の保管場所の工夫」については、利用者の目の届かない場所へ保管する等改善されていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。会議では、活発な意見交換が行われ、ここで出た意見要望を再度全員で検討共有し、サービス向上に活かしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議や家族面会時に意見、要望、不満を聴取するとともに、これらを「申し送りノート」により全職員が共有し、サービスの向上に役立っている。また、月2回市の介護相談員を受け入れるなど、第三者を通じ、各種意見、要望の吸い上げに努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の人々を事業所の行事に招待したり、利用者等散歩時に地元の人に挨拶したり、ボランティアとの交流を図ったり、管理者が地域審議会の一員として参加する等、地域の人たちとの交流に努めている。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者個人の尊重と地域との関係を重視した理念「暖かい心で相手の立場になって考える。共に考え、共に生き、共に幸福に、そして地域への貢献を目指す」を掲げ実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に理念を唱和するなど、日々確認のうえケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の行事(オープン記念日、花見、夕涼み会等)に地域住民や家族へ招待状を出し参加を呼びかけている。また、管理者が地域審議会の一員として参加する等、地域の人たちとの交流に努めている。	○	事業所の行事への参加呼びかけだけでなく、自治会や老人会等が主催する地域行事へ、利用者とともに積極的に参加することも望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価や外部評価の意義及び目的をよく理解しており、今回の自己評価も、管理者及び職員全員で実施した。なお、前回の外部評価で指摘された課題は改善されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成18年8月に第1回目を開催し既に10回実施している。会議では活発な意見交換が行われ、ここで出た意見要望を全員で検討共有し、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は月1回程度市の担当者を訪問し、事業所の現状を報告するとともに、問題点の相談や疑問点等質問したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「藪風だより」に、事業所の行事予定や行事開催内容等を掲載するとともに、利用者一人ひとりの暮らしぶり等近況報告を書き、家族に送付している。なお、預かり金管理簿のコピーも同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族面会時に意見、要望、不満等を聴取するとともに、これらを「申し送りノート」により全職員が共有し、サービスの向上に役立てている。また、月2回介護相談員2名が市より派遣され、各種相談に応じている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動による利用者への影響をよく理解しており、異動は極力しないよう努めている。また、職員の離職による利用者のダメージを防ぐため、職員が働きやすい勤務形態となるよう配慮し、離職を防いでいる。なお、止む無く職員が交代する場合は、新人職員を利用者にきちんと紹介し、利用者が不安を抱くことの無いよう配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回介助技術向上のための勉強会を実施するとともに、年2回三重県社会福祉協議会等主催の研修等へ派遣している。また、各種資格を取得するための勧奨を積極的に行うとともに、執務優良者や資格取得者等に対する報奨制度を実施している。なお、2007年度「男女がいそいそ働いている企業」奨励賞を受賞した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会や市開催の研修会に参加し、地域の同業者と意見交換や交流を図るとともに、他事業所からの見学等による交流をもつことにより、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人及び家族の見学、スタッフによる自宅訪問、体験入所など、関係者と相談しながら安心して利用開始が出来るように、その人に応じた対応をしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者個々の生活履歴をしっかり把握するとともに、利用者を人生の先輩であるという気持ちを常に頭に置き接している。その中で、生活の技等を教えてもらったり、共に支えあう関係作り心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人や家族等からの聞き取りによる希望、意向の把握に努めている。特に好きなこと、今やりたいことを大事にする等、利用者本意に配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「申し送りノート」や「ケアプランノート」による全職員の意見、課題の抽出や、本人、家族の意見要望を活かした介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月毎に見直しをしているが、職員は、日々の暮らしの中で常に状況の把握に努めており、変化が見られた場合は、関係者と相談のうえ随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望する墓参り等事業所の多機能性を活かした利用者が希望することへの対応に配慮している。なお、医療連携体制加算の認可も受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医による訪問診療を月2回、訪問看護を週1回実施している。本人や家族が希望すれば、今までのかかりつけ医による受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人にとって良い方法を主治医や家族と話し合い支援方法を決定しているが、現段階では終末期の対応までには至っていない。	○	現在ターミナルケアについて検討中である。出来るだけ早い段階から、本人や家族の意向の把握、医師との連携など、事業所の支援体制(職員の研修も含め)を整えることを期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大事にし、さりげない言葉かけやさりげない介助に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事摂取時間及び入浴時間等利用者のペースや意向に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、後片付け及び食器洗い等、一人ひとりの力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回であるが、希望があればその都度対応している。また、季節に応じて菖蒲湯、柚子湯、ハーブ湯等工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、縫い物、野菜作り、洗濯、掃除等、一人ひとりが有する力を活かした役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の外庭(広場)での散歩および事前に計画した外出支援は行っているが、一人ひとりのその日の希望に沿った支援には至っていない。	○	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた、利用者本位の外出(正門外への散歩や買い物等)に柔軟に対応できる工夫が望まれる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵を掛けていない。なお、利用者が外出しそうな様子に気が付いたら、声をかけたり一緒についていくようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3月6月10月の年3回、昼夜間等いろんな場面を想定した避難訓練を利用者とともに実施している。地域の人々の協力については、運営推進会議でお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量について毎日記録しており、栄養バランスについては、栄養士により管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が活けられ、廊下や居間にはソファが置かれている。また各ユニット毎に畳コーナーが設置され、家具、置物、装飾品も家庭的であり、居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真、ソファ、テレビ、衣装ケース等本人の使い慣れたものや好みのもが置かれ、利用者が居心地良く暮らせるように配慮している。		